

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600568		
法人名	株式会社日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームひかり		
所在地	静岡県三島市徳倉3丁目1-51		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	令和3年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouCd=2270600568-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouCd=2270600568-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3年 11月 25日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「居心地よく お互いさまに」を理念に、自分の家で暮らしているような安心感と共に日々の生活において入居者様の意思を尊重した対応を心がけています。リビングで皆様と楽しく過ごす時間もあれば、お部屋で一人でくつろぐ時間を大切に、入居者様がお自分のペースで過ごしていただけるよう支援しています。コロナ禍で外出やイベントの制限により沈みがちな気分を盛り上げる為、季節ごとの壁紙を貼ったり、行事食にはいつも以上に力を入れ楽しんでいただいています。面会ができない中、Instagramを作りホームでの様子を皆様に伝えています。入居者様・ご家族が安心して過ごせるよう全職員で支援しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念・事業所理念に基づいた支援の実践に努め、「親を入れたいグループホーム」を目指している。複数事業所を運営する法人は、管理者によるホーム長会議や職員による各種委員会活動の仕組みを整え、法人内事業所間での職員の交流を図っている。法人本部はいち早く「業務継続計画(BCP)」を策定し、感染症対策・災害発生時の対応と協力体制について話し合いが行われ、合同訓練等の実践に取り組んでいる。  
職員全員がモニタリングシートを記入して介護計画作成に繋げる仕組みがあり、ケア記録アプリを活用しながら、日々介護計画に基づく支援の実践に努めている。  
コロナ禍により外出・面会の制限がある中、予約での窓越し面会や毎月「お便り」の送付、近隣の散歩や敷地内の畑作業など、家族や地域との関係継続を心掛けている。感染症対策に留意しながら、野菜の収穫や居間の飾りつけ等、季節を感じながら暮らすことができるように工夫している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「居心地よくお互いさまに」の理念を玄関・事務所に掲示し職員へ周知し入居者様のケアを行っている。	複数の事業所(GH)を運営する法人は、月1回、法人GH管理者による「ホーム長会議」にて情報共有を図っている。事業所は、月1回「ユニット会議(カンファレンスや諸般の情報共有)」を行い、事業所の理念を確認し、理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃に参加したり、回覧板等で情報を共有し挨拶を交わす事を心がけている。地域の小・中学校の福祉体験の受け入れを行っている。今年度はコロナ感染流行の為中止。	コロナ禍では地域との交流は中止しているが、平常時においては加入している地元自治会と連携して、地域の祭り・盆踊りなどの行事に参加している。小・中学校の福祉体験学習の受け入れなど、地域住民との積極的な交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト活動を通じて市内、小・中・高・企業において認知症サポート養成講座を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、集まっての会議はできていないが書面で意見を聞き報告している。	運営推進会議は、コロナ禍の中、2か月に1回、書面での開催として、委員には事業所の情報を配布するとともに、提示された意見は議事録で情報共有を図り、事業所運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	三島市のグループホーム連絡協議会に参加し、市や他事業所と連携・協力している。	三島市GH連絡協議会に参加し、3か月に1回、行政からの伝達事項や他のGHとの情報交換の場として活用している。研修会等、毎回テーマを決めて開催されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を行い、管理者も含め身体拘束委員会を設置。各ホームの身体拘束委員会が2か月に1回リモート会議を開いている。勉強会・研修会を開き、日頃より身体拘束をしないケアを職員間で共有し実行している。	身体拘束に関する指針・マニュアルを整え、身体拘束適正化委員会を2か月に1回開催して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。「身体拘束・虐待委員会」を設置して、定期的な研修会や法人内他事業所との情報交換を行い、担当職員を中心に取り組みを継続している。委員は年度ごとに交代し、情報の周知を図っている。	

静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社のリモート会勉強会に参加しその内容を現場へフィールドアップしている。またホームの現状を把握し虐待・身体拘束をしないケアを職員間で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じカンファレンスや勉強会で理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、分かりやすく説明し、不明な点はその都度説明するようにしている。改定などがあった時は、説明の上同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置・入居者様からは普段の生活の中で、ご家族様からは、来訪時や電話連絡等で意見や要望を伺うように努め職員への周知、運営に反映させている。	コロナ禍の折り、家族の面会を制限していたが、今後状況を判断しながら緩和していく方向である。平常時は、家族が来訪した際の声掛けや、遠方の家族への電話連絡をこまめに行い、意見や要望の吸い上げに努めている。	コロナ禍の中で、今後も家族との交流は難しい状況であるが、家族からの意見や要望は重要な情報であることから、年に1回程度「サービス満足度アンケート」等を行い、家族に対する積極的な働きかけに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議で意見や提案を求めたり日常の業務の中でも意見を聞けるようにしている。	月例の職員会議やユニット会議にて職員との意見交換を行うほか、法人が設置する委員会に参加する担当職員は、法人内他事業所職員との意見交換や情報を共有できる。管理者は、都度問題の指摘や意見の吸い上げを心掛け、年2回の「人事評価」では、職員の自己評価シートをもとに、法人本部と話し合える仕組みが整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社による労務管理や給料改定の下、事業所でも個々の能力・事情に配慮した働きかけができるよう対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者・実務者研修の対象となっている職員へ資格取得の助成金制度や研修の案内を伝え資格取得に務めている。法人内外の研修へ全職員が参加できるようにしている。		

静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡会や研修に参加し交流を持っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談を通して、ご本人・ご家族の話に耳を傾け、入居に向けて、お互い納得が行く対応を提案し、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望を細かく伺い、職員間で情報を共有し不安等を一つ一つ丁寧に解決している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要となるサービスを導入に対し他職種との連携を図りながら、よりよいものを提供できるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の尊厳と自己決定を大切に、職員と対等の関係を前提に接しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に情報共有し、協力して入居者様を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でできていないが、馴染みの人との面会の機会やご家族との関係、馴染みの場所へ外出できるようにしている。	コロナ禍により面会ができない状態が続いていたが、今後緩和の方向で徐々に準備を進めている。事業所敷地内の畑では、近隣住民の協力を得ながら、農作業や四季折々の野菜の収穫を楽しんでいる。感染症対策を取りながら、月1回の訪問美容の利用や家族とのお墓参りを支援している。	

静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションがとれるよう支援し、ホールでの席は気の合う人同士で座っていただいています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先のケアマネ様から様子を聞いたり、ご家族様から相談を受けたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の要望・願いを聞き取り、ホーム内でできる限り対応できるよう支援している。	入居前に「入居相談受け付け票」にて入居に対する要望を聴き取り、入居時の初回アセスメントとして介護計画に反映している。入居後は、職員全員がモニタリングシートを記入・都度情報共有しながら、利用者や家族の希望・意向に沿った支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや日頃の会話・生活歴などからこれまでの生活を理解し、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当制にし担当者を中心に一人一人の生活状況をカンファレンス等で共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニット会議の中でモニタリングを行い、日常の様子を話し合い、ご家族へも電話で要望を聞いている。コロナ禍でユニット会議ができない時は、職員に書面にて意見をいただいている。	毎月ユニット会議のカンファレンス前には、職員全員が利用者個々のモニタリングシートを作成し、計画作成に向けた意見交換を行っている。ケアマネジャーは、これらの意見を反映しながら、アセスメントや介護計画作成に繋げる仕組みが出来ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット内の申し送りを使ったり、時には申し送りノートを使用して情報共有をしている。		

静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関・地域の活動・ボランティア等と連携を図り柔軟なサービスができるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会・民生委員・地域包括と連携を取り、地区の行事などに参加してきたが、コロナ禍の為行えていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の医療機関だけでなく、入居者様の希望される医療機関への受診の相談・支援・緊急入院などの支援を行っている。	協力医は、月1回の全員往診と、2週間に1度の利用者個別の定期往診により、ほぼ毎日、医師と連絡を取りながら、きめ細かい支援が行われている。看護師は週2回訪問し、健康管理を行っている。他科受診は家族の協力を得ているが、都度電話連絡等により情報共有を心掛けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師が訪問し、連絡シートを使い気になることや相談事は、申し送りできるようにしている。24時間看護師と連絡できるようなシステムになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者かケアマネが病院のソーシャルワーカーと連携をとり対応している。退院後の生活に向けた指導・助言を受け、経過はご家族へ報告している。病院の主催する研修会にも参加し連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合・医師・ご家族と連携を取り看取りケアについて話し合い書面にて確認・同意を行っている。	重度化や終末期に向けた事業所の方針は、入居時に「看取り確認票」にて、利用者・家族の同意を得ている。急変時や重度化した際には、主治医とともに家族に再度説明し、意向に沿った対応を心掛けている。職員は、看取り指針・マニュアルについて定期的な研修を行い、利用者・家族の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを使い急変時の対応・事故発生時の対応を定期的に職員に周知している。研修などの行っている。		

静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練を行い、夜間想定・風水害の訓練も行っている。地域の防災訓練に参加している。(コロナの為中止が多い)	年2回、火災・夜間・台風による風水害等テーマを決めて防災避難訓練を行っている。法人作成の計画(BCP)に基づき、法人内他事業所との連携訓練を計画している。5日分を目途に水・食料・卓上コンロなどを備蓄し、防災担当職員を中心にローリングストックにて管理している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居者様の尊厳の保持とプライバシーを大切にサービスを提供している。	人格の尊重やプライバシー保護について、法人の接遇研修等により定期的な研修を行い、職員への周知を図っている。利用者への声掛けや話し方に課題がある場合は、都度管理者とユニットリーダーが注意するとともに、申し送りノート等を活用し、職員との情報共有を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に自己決定していただくが、自己決定が難しい入居者様の場合、しぐさや表現より汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、入居者様には無理強いないで個別に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は、入居者様自身で選んでいただき、選ぶことができない入居者様は、入居当時ご家族より好みを聞くなどしている。今まで使っていた化粧水などを使っていたらいい。月一回、訪問美容室をお願いし好きな髪型にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	習慣となっていることや入居者様の意向を聞き、職員と一緒に調理・盛り付け・食器拭き等行っている。行事食などは食べたいメニューを聞き提供している。	定期的に業者から届く食材と施設内の畑で作った新鮮野菜を、利用者とともに職員が調理し、一緒に食事をしている。月1回、行事担当職員が利用者の好みを聴いて献立(お寿司、ピザ、ケーキバイキングなど)を作り、楽しく食事する工夫を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様個々の状態に合わせて提供している。水分メニューも、色々用意し選んでいただいている。		

静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態を見てケアし、自立の方には声掛けを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見て声掛けし日中・夜間ともトイレ誘導を行っている。	ケア記録アプリを活用した「排泄チェック表」をタブレットで入力し、個々の排泄パターンに合わせた声掛け、トイレ誘導を心掛けている。夜間は、転倒防止のためセンサーを利用しながら、トイレへの安全な誘導と利用を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを食べていただき、1日1回は牛乳の提供をしている。午前中にラジオ体操をしたり、散歩に出掛けたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できるような体制作りをしている。入浴剤を2-3種類用意し好きな香りを選んでいただけるようにし、入浴困難な入居者様には、足浴・清拭等で清潔が保てるよう支援している。	毎日午前・午後、利用者が好きな時にいつでも入浴できるように支援している。足浴・清拭・シャワー浴など、利用者の状態や希望に合わせた方法による入浴を勧めて、清潔が保たれるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の環境作り・室温・照明の調整を行いゆっくり休んでいただけるように支援している。日中活動するよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬剤情報はすぐ見られるところに保管し、薬が変わった時は申し送りを徹底している。主治医や薬剤師と連携を取り、疑問に思ったことはすぐに聞くようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴からできることを探し、役割を持ち、(食事作り・縫物・洗濯等)今までやってきたことが続けられるよう支援している。		



静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣に散歩やドライブに出掛けている。途中、自動販売機でジュース・アイスを買って帰ってくることもある。コロナの為、ご家族や地域の方と出かけることはできていない。	コロナ禍により外出制限をしているが、車での外出など個別の対応を検討している。事業所敷地内に家庭菜園を設け、地域住民の協力を得ながら、農作業や四季折々の野菜の収穫は、利用者の外出支援にも多に役立っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布はホームで預かり、散歩に出掛ける時は入居者様に財布を渡し、自動販売機でジュース・アイスを購入していただいている。コロナの為、スーパーへ買い物はできていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月のお便りを出す際入居者様にも書いていただいている。いつでも電話ができる体制にしている。携帯電話を持っている入居者様もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分は、過ごしやすい環境作り・清潔を保ち、季節を感じるよう飾りつけをしています。	利用者と共に作った折り紙等の作品を飾り、季節を感じる空間づくりを心掛けている。感染症対策として、午前・夜間の清掃と、こまめな消毒、24時間窓の一部を開けて換気するなど、感染症委員会担当職員を中心に、清潔な生活空間の保持に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの壁紙・座席の配置を考え入居者様が落ち着いて過ごせるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っていたものをそのまま持ってきていただいている。馴染みのある物やご家族との写真を飾り、まるで自宅にいるような居室づくりをしている。	洗面台・クローゼット備え付けの居室は、入居前から使い慣れたものを持ち込み利用者好みの部屋づくりを支援している。居室担当職員は家族と連絡を取りながら、利用者の状態や気候に合わせて清掃や衣替えを行い、居心地よい部屋づくりを心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にネームプレートを貼ったり、トイレの表示を分かりやすく見やすいように貼ったり工夫している。安全に生活できるよう物の配置も考えている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600568		
法人名	株式会社日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームひかり		
所在地	静岡県三島市徳倉3丁目1-51		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	令和3年12月20日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「居心地よく お互いさまに」を理念に、自分の家で暮らしているような安心感と共に日々の生活において入居者様の意思を尊重した対応を心がけています。リビングで皆様と楽しく過ごす時間もあれば、お部屋で一人でくつろぐ時間を大切に、入居者様ご自分のペースで過ごしていただけるよう支援しています。コロナ禍で外出やイベントの制限により沈みがちな気分を盛り上げる為、季節ごとの壁紙を貼ったり、行事食にはいつも以上に力を入れ楽しんでいただいています。面会ができない中、Instagramを作りホームでの様子を皆様に伝えています。入居者様・ご家族が安心して過ごせるよう全職員で支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2270600568-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2270600568-00&ServiceCd=320&Type=search)

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3年 11月 25日		

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「居心地よくお互いさまに」の理念を玄関・事務所に掲示し職員へ周知し入居者様のケアを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃に参加したり、回覧板等で情報を共有し挨拶を交わす事を心がけている。地域の小・中学校の福祉体験の受け入れを行っている。今年度はコロナ感染流行の為中止。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト活動を通じて市内、小・中・高・企業において認知症サポート養成講座を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、集まっての会議はできていないが書面で意見を聞き報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	三島市のグループホーム連絡協議会に参加し、市や他事業所と連携・協力をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を行い、管理者も含め身体拘束委員会を設置。各ホームの身体拘束委員会が2か月に1回リモート会議を開いている。勉強会・研修会を開き、日頃より身体拘束をしないケアを職員間で共有し実行している。		

静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社のリモート会勉強会に参加しその内容を現場へフィールドアップしている。またホームの現状を把握し虐待・身体拘束をしないケアを職員間で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じカンファレンスや勉強会で理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、分かりやすく説明し、不明な点はその都度説明するようにしている。改定などがあつた時は、説明の上同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置・入居者様からは普段の生活の中で、ご家族様からは、来訪時や電話連絡等で意見や要望を伺うように努め職員への周知、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議で意見や提案を求めたり日常の業務の中でも意見を聞けるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社による労務管理や給料改定の下、事業所でも個々の能力・事情に配慮した働きかけができるよう対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者・実務者研修の対象となっている職員へ資格取得の助成金制度や研修の案内を伝え資格取得に努めている。法人内外の研修へ全職員が参加できるようにしている。		

静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡会や研修に参加し交流を持っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談を通して、ご本人・ご家族の話に耳を傾け、入居に向けて、お互い納得が行く対応を提案し、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望を細かく伺い、職員間で情報を共有し不安等を1つ1つ丁寧に解決している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要となるサービスを導入に対し他職種との連携を図りながら、よりよいものを提供できるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の尊厳と自己決定を大切に、職員と対等の関係を前提に接しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に情報共有し、協力して入居者様を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でできていないが、馴染みの人との面会の機会やご家族との関係、馴染みの場所へ外出できるようにしている。		

静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションがとれるよう支援し、ホールでの席は気の合う人同士で座っていただいています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先のケアマネ様から様子を聞いたり、ご家族様から相談を受けたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の要望・願いを聞き取り、ホーム内のできる限り対応できるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや日頃の会話・生活歴などからこれまでの生活を理解し、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者様に担当職員をつけ担当を中心に日々の生活やカンファレンスで情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の支援から情報を集め、モニタリングを行いご家族様からの要望や意見を取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入し申し送り等で情報共有している。		

静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関・地域の活動・ボランティア等と連携を図り柔軟なサービスができるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会・民生委員・地域包括と連携を取り、地区の行事などに参加してきたが、コロナ禍の為行えていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の医療機関だけでなく、入居者様の希望される医療機関への受診の相談・支援・緊急入院などの支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師が訪問し、連絡シートを使い気になることや相談事は、申し送りできるようにしている。24時間看護師と連絡できるようなシステムになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者かケアマネが病院のソーシャルワーカーと連携をとり対応している。退院後の生活に向けた指導・助言を受け、経過はご家族へ報告している。病院の主催する研修会にも参加し連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合・医師・ご家族と連携を取り看取りケアについて話し合い書面にて確認・同意を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを使い急変時の対応・事故発生時の対応を定期的に職員に周知している。研修などの行っている。		

静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練を行い、夜間想定・風水害の訓練も行っている。地域の防災訓練に参加している。(コロナの為中止が多い)		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居者様の尊厳の保持とプライバシーを大切にサービスを提供している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に自己決定していただくが、自己決定が難しい入居者様の場合、しぐさや表現より汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、入居者様には無理強いせず個別に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は、入居者様自身で選んでいただき、選ぶことができない入居者様は、入居当時ご家族より好みを聞くなどしている。今まで使っていた化粧水などを使っていたらいい。月一回、訪問美容室をお願いし好きな髪型にさせていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	習慣となっていることや入居者様の意向を聞き、職員と一緒に調理・盛り付け・食器拭き等行っている。行事食などは食べたいメニューを聞き提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様個々の状態に合わせて提供している。水分メニューも、色々用意し選んでいただいている。		



静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシやうがいだけでなく口腔ティッシュ・スポンジブラシを利用し入居者に合わせた口腔ケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し個々のリズムを把握しケアに反映させている。夜間もトイレの声掛け・誘導を行い排泄の自立を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを食べていただき、1日1回は牛乳の提供をしている。午前中にごぼう体操をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できるような体制作りをしている。入浴剤を2-3種類用意し好きな香りを選んでいただけるようにし、入浴困難な入居者様には、足浴・清拭等で清潔が保てるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の体調に合わせて休んでいただいたり、照明・室温調節を行い安眠できる空間作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は薬剤師がセットし変更、追加がある場合内服チェック表を記入し、お薬手帳・薬剤情報で職員の情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様、個々にできる範囲でお手伝いに参加していただいたり、好きな事、脳トレ、塗り絵、植物の水やり等支援を行っている。行事などにも参加していただいている。		

静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣に散歩やドライブに出掛けている。途中で、自動販売機でジュース・アイスを買って帰ってくることもある。コロナの為、ご家族や地域の方と出かけることはできていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で財布を持たれている入居者様もいるが現在コロナで外出支援ができない為、職員が代わりに買い物に行くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月のお便りを出す際入居者様にも書いていただいている。いつでも電話ができる体制にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分は快適に過ごせるよう清潔を保持している。玄関・リビングには季節を感じられるようなものを掲示している。今年は東京オリンピックだったので、お花紙で花を作り、メダル代わりにし壁紙を作ったりした。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに入居者様が希望される脳トレ・塗り絵・雑誌などを用意し活用している。入居者様間の様子で座席やテーブルの位置を変えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前よりご家族と一緒に考え、馴染みのあるものや好みの物を置き安心した空間作りをしている。タンス・仏壇などを置いている居室もある。居室で過ごすときは好きな音楽を聞いている入居者様もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にネームプレートを貼ったり、トイレの表示を分かりやすく見やすいように貼ったり工夫している。安全に生活できるよう物の配置も考えている。		